明治四十一年創業　中山道高宮宿
tanakaya-communication
田中家通信
全優石 全国優良石材店
VOL. 13
株式会社 田中家石材
HP●http://www.tanakaya-sekizai.com/
Mail●info@tanakaya-sekizai.com
発行／株式会社　田中家石材
住所／彦根市高宮町1081
電話／0749(24)2789

お彼岸にはお墓に手を合わせましょう。

彼岸信仰は、他の仏教国には無い日本固有の信仰です。仏教の教えには、**何でもほどほどが良いという「中道」**の考えがあり、それが**「彼岸」**と結びつきました。

阿弥陀佛の極楽浄土は「西」にあるとされています。この沈む太陽が示す極楽浄土への道を**「白道（びゃくどう）」**といい、この道を信じて進めば極楽浄土に至るという浄土思想が生まれました。

浄土教が日本に広まった平安時代から、お彼岸も普及し始めますが、とくに**大阪の四天王寺の西門が東門と向き合っているという信仰は有名で、お彼岸には、西門から難波の海に沈む太陽を眺め、極楽浄土を想う人々であふれかえった**と言われます。

◆農耕と彼岸

春分と秋分は農耕という観点から眺めると、**春分**（種苗の時期）・**秋分**（収穫の時期）にあたり、作物を育てる太陽と自分たちを守る祖先神への信仰が仏教伝来以前からあり、春分には豊穣を祈り、秋分には収穫に感謝して供え物をしたことが原型と考えられています。仏教が伝来すると、春分・秋分がそれぞれ彼岸の中日にあたることもあり、仏教の習俗と古来の風習が混交して現在の姿になったと思われます。

◆彼岸が暦に載るようになった理由

昔、彼岸会説法は比叡山の坂本に限っておこなわれていました。人々は、この説法を聞きたいがために群れ集いますが、毎年、その年の彼岸の日付がよくわからないので難儀するからと、比叡山からの要請があって、これを暦に載せるようになりました。

日本の粋な文化

懐石料理の起源は

懐石料理の起源は文字通り**「懐（ふところ）に石を抱く」**事からきています。もともと修行中の禅僧の食事は、午前中に一度だけと決められていました。そのため当然夜になるとお腹が空き、体温が下がってきます。そこで温めた石を懐に抱いて飢えや寒さをしのいでいたのです。ここから懐石という言葉は、**「わずかながら空腹を満たし、身体を温める質素な食べ物」を意味**するようになりました。その後の安土桃山時代に茶道と禅宗が結びつき茶道が確立していきました。その中で茶道の創始者である千利休が禅料理の精神をさらに追求し茶道に取り入れ、狭い茶室でも簡単に食べることができる懐石料理を完成させました。

懐石料理には、**「旬の食材を使う」「素材の持ち味を活かす」「親切心や心配りをもって調理する」という三つの大原則**があります。この原則にも千利休の侘びの思想が色濃く反映しています。

上座と下座とは

一般に、**和室では床の間に近い席が上座、部屋の出入り口に近い席が下座**となります。

床の間がない部屋では出入り口から遠い席が上座、近い席が下座となります。また**洋室の場合、ソファーが上座**になるのは、「二人分のスペースがある広いソファーに一人で座ってもらい、よりくつろいでもらいたい」という大切な客人や年配者などへの配慮が込められています。

また**出入り口に近い方が下座**なのは、出入りが頻繁にあると落ち着かない気分になるため、大事な人を座らせるわけにはいかないからです。なぜ床の間の近くが上座になったのかというと、古来より床の間は仏画をかける神聖な場所であったため、部屋の一番奥の出入り口から遠い落ち着いた場所に造られました。

その**神聖で落ち着く場所に身分の高い大事な人に座ってもらう**のは、自然な流れだといえるかもしれません。

五月五日こどもの日

◆端午の節句とは？

端午の節句の起源はいつ頃なのかというと、古代中国にまでさかのぼります。

端午の端の字は見た通り、**「はじ」**つまり最初の意味です。それに加え、午は**「うま」**と読み、**あわせて「五月最初の午の日」という意味でした。**つまりこどもの日は、何と五月五日と決まっていたわけではなく、五と午のゴロあわせで、五月五日になったとの説があります。

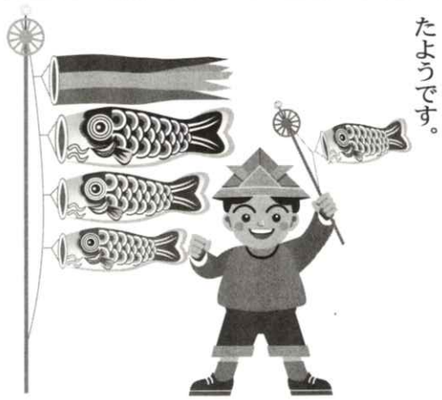
◆鯉のぼり、鎧兜の由来は？

江戸時代、幕府は五月五日を重要な日とし、大名や旗本は式服でお祝品を整え江戸城に出向きました。これ以降、**武士の家に男子が生まれると、門前に馬印というものや、のぼりをたてるようになり、その風習が一般にも伝わって、庶民はのぼりをたてるかわりに鯉のぼりをたてたといいます。**

庶民は、のぼりをたてる事を許されていなかったので、出世するようにとの願いを込め、鯉のぼりは、この時はじめて端午の節句に係わってきたようです。では、鎧兜はいつ頃から飾るようになったのかというと、それは以外にも戦後になってからでした。

鎧兜は古くから身体を守る象徴として考えられており、そのため男の子を事故や災害から守るといわれています。

このような考えから、端午の節句の鎧兜は、実は戦い争うためでなく、本当は身を守るため、健康に成長するようにとの願いから飾られるようになったようです。



家紋

家紋とは

家紋は今日まで息づいている日本固有の文化であると言っても過言ではありません。「源平藤橘」、つまり源氏、平氏、藤原氏、橘氏といった強力な氏族がいた時代、区別をはかるため土地の名前などを自分の家名（屋号）とし、それが後の名字となりました。**家紋は家の独自性を示す固有の目印的な紋章として生まれ、名字を表す紋章としての要素が強くあります。**その後、武家や公家が家紋を使用するようになり、血統や元々の帰属勢力としていくつかのグループに大きく分けることができ、それぞれが代表的な家紋とそのバリエーションで構成されています。その他、各地の豪族がそれぞれ新たに創作した家紋が現代まで伝わっているものもあります。特別な紋章や場合を除いて、家紋を幾つも所有することは自由だったこともあり、墓地や家具、はたまた船舶にまで付けられるほどまでに広まりました。それほど家紋は人々の暮らしに息づいていたと思われます。当然、刀や甲冑といった武具にも、好んで使用されました。

其の一〈橘紋〉――

◆橘　紋

日本十大家紋の一つ。幕末の大老であったご当地、**彦根の井伊氏も橘紋**です。

橘は現在ある蜜柑の原種で、香気が強く、雪害に強くよく育つことから、**人徳があり奥ゆかしい人を「橘のようだ」**となぞらえたという逸話があります。桃の節句には桃の花とともに橘を飾る風習は現在にいたるまで続いています。珍重される植物であったゆえに家紋に使われるようになったといわれています。橘紋は橘氏の代表紋ですので、主として橘氏流が用いています。

藤原氏流である井伊氏はその祖先共保が生まれたとき、井戸のかたわらに橘の実があったので**「橘」**を紋にしたとの伝説もあります。

（橘紋の一例）

日本で初めて「品質」「施工」保証書発行。お客様のニーズにお応えします。設計から納骨、開眼供養まで一生に一度の大切なお買い物だから安心できる価格をご提示。墓地・霊園のご紹介から手続きまでご相談ください。●技術資格／厚生労働大臣認定　石積一級技能士　厚生労働大臣認定　石貼一級技能士　厚生労働大臣認定　石材加工一級技能士　◆松下電工労働組合加盟店　◆ブリヂストン生協加盟店　◆財務省印刷局彦根朝陽会加盟店